

テーマ：『 人や自然と豊かにかかわり、主体的に学び合う子の育成 』

横浜市立 下永谷小学校

Tel. 045-822-7344

担当者： 大石 久宜



■実践内容：

- 横浜市環境教育の指針(の環境教育の内容)をもとに、本校の環境教育の内容を検討し、環境教育全体計画を見直した。<平成 20 年度の全体計画:別紙資料参照>
- 学年指導計画をもとに、本校の環境教育の内容の視点から、関連している各教科等や単元を洗い出し、活動を見通した一覧表を作成した。各教科等で、環境教育と関連して、指導できる単元や学習内容を検討し、授業実践に取り組んだ。
- 貴重な自然環境である「校庭しぜん体験博物館」を利用し、子どもたちに身近な自然や人とふれあう体験的な学習を大切にした「楽しい」「わかる」授業作りを続けた。教師と子どもが共に学びをつくり、「手づくりの環境づくり」が、地域やPTA活動、さらには木の実クラブや下永谷小学校卒業生クラブなどのネットワークに広がり、「人や自然にやさしい」学校づくりに発展している。
- 「校庭しぜん体験博物館」とは校庭の周りの自然を生かした活動や体験ができる学習の場であり、観察や体験の場を囲むと、ちょうど校庭を取り囲むようになっている。
「校庭しぜん体験博物館」を活用した各学年の学習活動を以下に簡単に紹介する。
- (5, 6組) いろいろな野菜や花を育ててきた。また、畑で収穫した野菜を調理して食べた。また、ザリガニの飼育に一人ずつ取り組んだ。
- (1年) 学校探検などを通して、校庭の季節ごとの自然や生き物と、五感を通して、十分にふれ合う活動を展開している。
- (2年) 学校探検のときに、そよ風の散歩道で見つけたカントウタンポポの綿毛を育て、生活科ロードにタンポポ畑を作った。プール開き前にヤゴを救出して教室で飼育しトンボにかえた。
- (3年) 地域の公園愛護会の方と一緒に公園清掃を行った。校内では下永谷小学校卒業生クラブと協力し、グリーンカーテンを作成した。虫や花でいっぱいにする学習に取り組んでいる。
- (4年) 学習ボランティアの方と共に年間を通して、校庭の木や植物の観察を行っている。
- (5年) 6年生から受け継いだ下小米を種籾から大事に育て、米作りに取り組んだ。田んぼを通して生き物の命が繋がっていることを学んでいる。
- (6年) 生き物にとってさらに住みやすい水辺を目指しながら水辺作りやメダカ池作り、校庭環境マップ掲示板の作成を行っている。
- 実践した内容を学校・学年だより、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境行動への意識を全校や地域に発信し、普及啓発に努めた。

■実践成果：

- 年間を通して、この「校庭しぜん体験博物館」を生かした体験的な学習が各教科等の学習内容を豊かにした。
- 環境教育全体計画を見直し、学年ごとの環境教育の内容を一覧にすることで、子どもの姿や小学校の発達段階に応じた子どもの姿が見られ、環境教育の学習内容がより明確になった。
- 手づくりの学習環境や地域の人材を活用した体験的な学習を大切にする授業を実践することができた。それにより子どもの興味・関心が高まり、主体的な活動が見られた。
- 体験的な学習活動を積み重ねていくことで、学年間の交流が活発になった。相手意識をもつことによって自分たちの目的がはっきりしたり、意欲をもった活動になったりしている。さらに「来年はこういう活動ができるんだ」と子どもが見通しをもつことができた。
- 木の実クラブの方をはじめ、地域の方と連携した活動を意識したことによって、学習が深まり、広がっていった。また身近な地域の方とのふれあいから、子どもたちが地域への愛着をもつようになった。
- 環境デーのことや、授業実践した内容を学校・学年だより、学校ホームページで知らせたり、授業公開で紹介したりするなど、環境への意識を全校や地域に発信し、広めることができた。

■実践ポイント： 手づくりの学習環境や地域を活用した体験的な活動に重点をおき、自らよりよい環境づくりを実践する子を育てる。